

MITSUBISHI 三菱電機パッケージエアコン

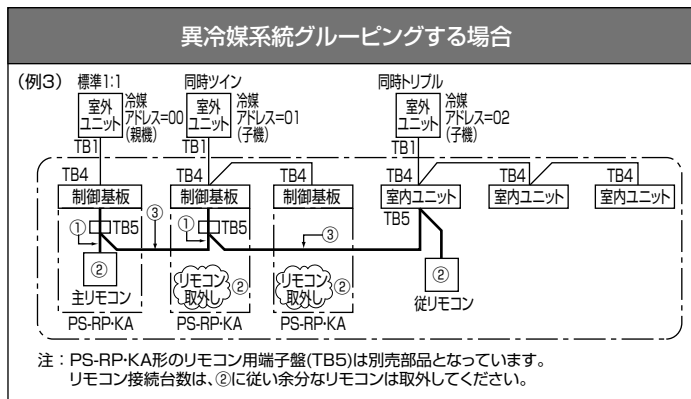
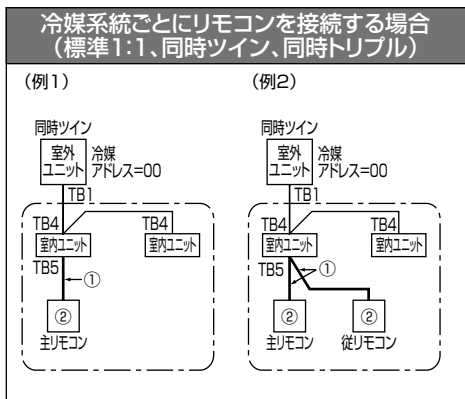
システム コントロール 工事 説明書

販売店・工事店さま用

冷媒R410A対応

PS-RP50～160KA9

■**伝送線配線** リモコンの配線はシステム構成によって異なりますので、以下の例に従って行ってください。



記号	名称
TB1	端子盤(室外：電源及び内外接続線)
TB4	端子盤(室内：内外接続線)
TB5	端子盤(リモコン伝送線)

※冷媒アドレスの設定は、室外ユニットのディップSWにて行います。(詳細は室外ユニットの据付工事説明書をご覧ください。)
※図中の①、②、③の番号は、下記①、②、③の注意事項に対応しています。

① リモコンからの配線

- 室内ユニットのTB5(リモコン用端子盤)へ接続します。(極性はありません)
※PS-RP-KA形にはリモコン用端子盤(TB5)が付属されていません。本ページのようなグループ制御、ワイヤードリモコンの併用(2リモコン)のシステム構成を組まれる場合は、別売部品の「リモコン端子盤キット」PAC-SH29TCをご購入ください。
- 同時マルチタイプの場合には、いずれか1台の室内ユニットTB5にのみリモコンを接続してください。異なる機種種の室内ユニットが混在する場合は、各室内ユニットが持つ全ての機能(風速、ペーン、ルーバー等)を操作することができます。

② 1グループに2台までリモコンが接続できます。

- 1グループにリモコンを2台接続した場合、主リモコンと従リモコンの設定を必ず行ってください。
- リモコン主従設定方法は、リモコン据付説明書(設定編)をご覧ください。
※1グループのリモコンが1台であれば、主リモコン設定(初期設定)から変更は不要です。
※グループ制御でリモコン接続台数が2台を超える場合は上図(例3)のように余分なりリモコンを取外してください。
※MAスマートリモコンを追加する場合は、本体取付けのリモコンの主従設定を「主」→「従」に設定してください。(PAR-35MAの場合は、CO₂排出量表示・パワーシェア運転・スマートデフロスト運転が可能となります。)

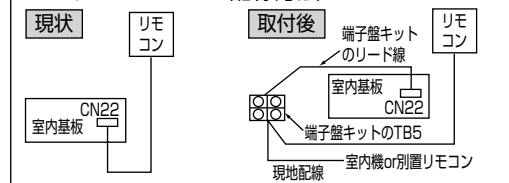
③ 異冷媒系統でグルーピングする場合

- リモコン配線によりグルーピングを行います。グルーピングする各冷媒系統の任意の室内ユニット1台とリモコン線にて渡り配線してください。
- 同一グループ内にて異なる機種種の室内ユニットが混在する場合、必ず機能(風速、ペーン、ルーバー等)の多い室内ユニットが接続されている室外ユニットを親機(冷媒アドレス=00)としてください。
- この場合、()で囲まれた全室内ユニットを1グループとして制御します。
- MAリモコンでは最大16冷媒系統を1グループとして制御可能です。
- MAスマートリモコンにて、パワーシェア運転・スマートデフロスト運転を採用する場合は、最大4冷媒までです。機能の詳細は室内ユニット取扱説明書をご覧ください。
※異冷媒系統をグルーピングして、PAR-35MAによるCO₂排出量表示・パワーシェア運転・スマートデフロスト運転を行いたい場合は室内基板のSW5-8をONに設定してください。
但し、PS-RP-KA5形より前の機種とグルーピングする場合は、室内基板のディップSW設定は変更しないでください。(SW5-8は、OFFのままにしてください)
※リモコンからの配線は上記①②の条件を満たしてください。

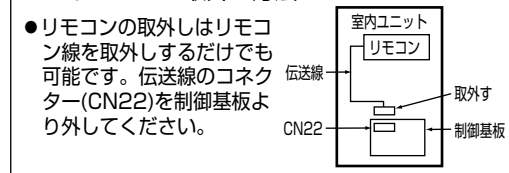
■**リモコンコードの総延長は500mです。ただし、リモコンを2台接続(例2)、(例3)でご使用の場合は200m以下にしてください。**

- 0.3mm²の電線または2芯ケーブルを使用してください。(現地手配)
- 誤動作する場合がありますので、多芯ケーブル及びシールドケーブルの使用は避けてください。
- リモコンコードはアース(建物の鉄骨部分または金属等)及び電源配線・内外接続線が直接接触しないようにできるだけ離してください。

リモコンからの配線方法

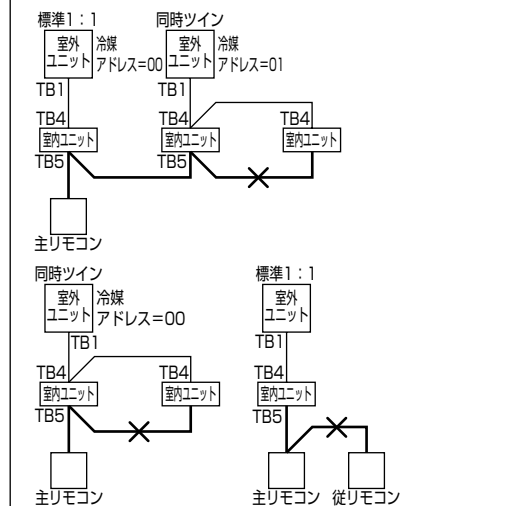


リモコンの取外し方法



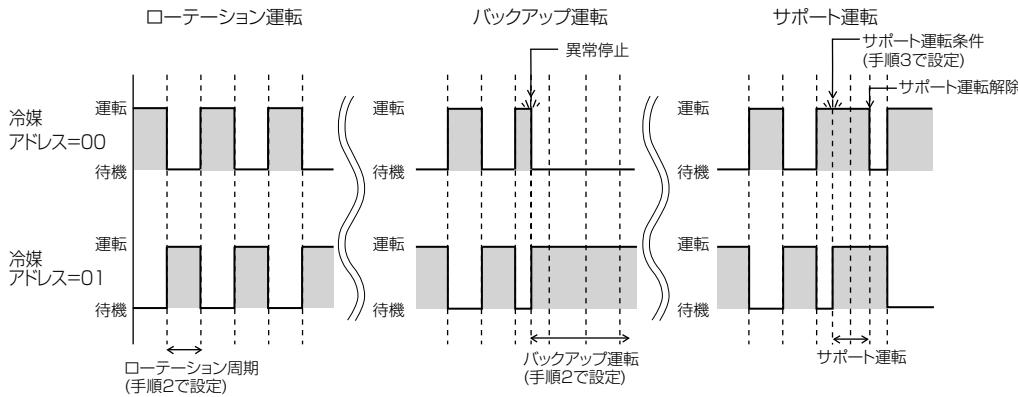
確認

- 同一冷媒系統の室内ユニットTB5への渡り配線は禁止です。渡り配線した場合、システムが正常に動作しません。
- リモコン同士での渡り配線は禁止です。リモコンの端子盤には配線は、1本しか接続できません。

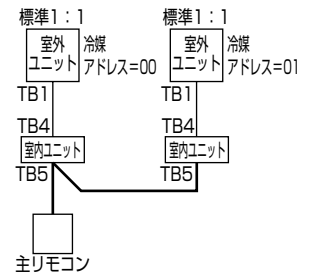


■ローテーション設定

- MAスマートリモコンにより2系統の1:1システムに限り、ローテーション運転やバックアップ運転の設定が可能です。
- ローテーション運転は、各系統を交互運転させ、運転時間の均一化を図ることができます。
- バックアップ運転は、1系統が異常停止した場合でも待機中の系統が起動し、空調を継続することができます。
- サポート運転(パワフルツイン冷房)は、1系統では能力が不足する場合に、自動的に待機中の系統が起動し、補助運転を行います。



ローテーション設定を行う場合

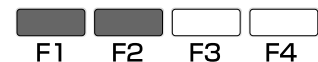
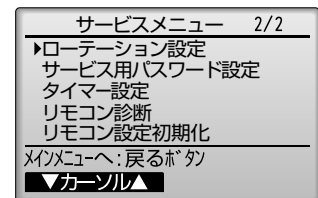


- ※リモコンを2台接続する場合は、リモコンの主従設定を行ってください。
- ※設定は主リモコンからのみ可能です。

① 設定手順

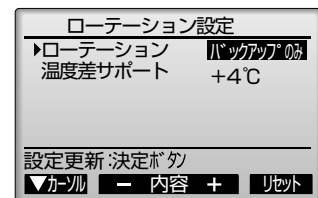
【手順1】リモコンを『ローテーション設定』に切換えます。

- サービスメニュー画面で『ローテーション設定』を選択し、**決定** ボタンを押します。



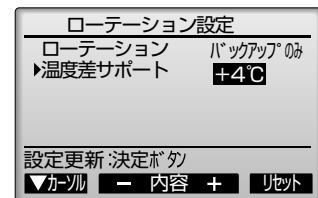
【手順2】ローテーション運転を設定します。

- F1** ボタンで『ローテーション』を選択します。
 - F2**、**F3** ボタンでローテーション周期またはバックアップを選択します。
- 選択項目：無し、1日、3日、5日、7日、14日、28日、バックアップのみ
 ※1日～28日を選択した場合は、バックアップ機能も有効となります。
 ※『バックアップのみ』を選択した場合は、冷媒アドレス=00の系統がメインとして運転し、冷媒アドレス=01の系統がバックアップとして待機状態となり、ローテーション運転されません。



【手順3】サポート運転を設定します。

- F1** ボタンで『温度差サポート』を選択します。
 - F2**、**F3** ボタンでサポート運転が動作する『吸込み温度と設定温度の差』を選択します。
- 選択項目：無し、+4℃、+6℃、+8℃
 ※サポート運転は冷房設定時のみ有効です。(暖房、ドライ、自動設定時は動作しません。)
 ※サポート運転はローテーション設定で『無し』以外に設定した場合に有効になります。



【手順4】設定更新

- 決定** ボタンを押し、設定を更新します。

② リセット方法

- F4** ボタンでローテーション運転時間がリセットされ、冷媒アドレス=00の系統からの運転となります。
 ※冷媒アドレス=01の系統がバックアップ運転中の場合は、冷媒アドレス=00が運転に戻ります。